

# 大学の外国人講師を対象としたボランティア日本語教室

著者	英保 すずな, 渡嘉敷 恭子
雑誌名	関西外国語大学留学生別科日本語教育論集
巻	23
ページ	109-129
発行年	2013
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1443/00005834/">http://id.nii.ac.jp/1443/00005834/</a>

## 大学の外国人講師を対象としたボランティア日本語教室

英保 すすな

渡嘉敷 恭子

### 要旨

本稿は関西外国語大学の日本語ボランティア教室についての紹介と、筆者らが平成24年度と25年度に渡って日本語ボランティアに行った指導の実践報告である。関西外国語大学では日本語教員養成課程があり、その履修学生を中心に、日本語ボランティア教室で外国人講師に日本語を教えている。あくまでボランティア学生の自主性に任せた活動であるが、日本語教員養成課程を担当している筆者との面談で様々な問題を抱えていることがわかり、指導及び助言を行うことになった。その後、定期的にコンサルテーションとアンケート調査を行い、必要に応じて変更を提案した。今現在もレベル分けの方法などの問題点が今後の課題として残されている。今後も日本語ボランティアが入れ替わる度にコンサルテーションを続けていく必要がある。

【キーワード】 日本語ボランティア、教育実習、日本語教室、ボランティア養成、大学内

### 1. はじめに

本学には外国人講師が約200名在籍し、キャンパスに隣接する教員住宅にはその家族も多く居住している。日本語を全く話せないまま来日した教員の場合、買い物をするにも外食をするにも言葉が通じず日常生活に常に不便がつきまとう。また家族同伴で来日した教員には子育て世代も多く、子供が病気になったり、保育園に連絡が必要になった時など英日両語に熟達した同僚や大学職員の助けに頼らざるを得ない。大学近辺に日本語教室がないわけではないが、時間的・立地的なことを考えると、キャンパス内に日本語を学べる場があることが理想的である。学内で日本

語を学べる場を設けて欲しいという声は以前からあった。こうした状況のなか、日本語教員養成過程で日本語文法や教授法を学ぶ学生のあいだでもクラスで学んだ知識やスキルを実践してみたいという声が高まり、外国人講師と学生の双方の希望が合致した形で学内にボランティア日本語教室が開設される運びとなった。

本稿ではまず平成 24 年春にボランティア学生らが始動したこの日本語教室の活動内容を紹介する。続いて筆者らが定期的に行ったコンサルテーションでボランティアから聞き取った問題点を取り上げ、それらに対して筆者らがどのような助言を与えたかを報告する。また、ボランティア教室の実情を把握するためにボランティア学生と受講者の双方に開始後 1 年ごとに 2 度にわたって実施したアンケート調査の結果も報告し、コンサルテーションによって過去 2 年のあいだにどのような改善が見られたかを検証するとともに、今後の課題についても考察する。

## 2. 日本語ボランティア教室の概要

### 2.1 ボランティア

本学の日本語ボランティア教室は平成 24 年にボランティア実習の一環としてスタートしたものである。教職課程に登録している学生を対象に募集が行われ、参加者は規定の活動時間数を満たせば「総合実習」として 1 単位または 2 単位が付与される。複数学期にわたって参加した場合、各学期につきさらに 1 単位または 2 単位が追加付与されることになっている。単位は認定されないが、教職課程に登録していない学生も希望すれば参加が認められる。

### 2.2 受講者

平成 24 年度は応募条件を制限しなかったため、まったくの初級者から母語話者と対等に渡り合える上級者まで様々な日本語習得レベルの受講希望者計 12 名から応募があった。在日年数も数ヶ月から 10 数年以上と多岐にわたり、上級者の中には言語学を専門とし、日本語を学ぶというより言語学的観点から日本語について語り合いたいという者もいた。平成 25 年度は応募条件を初級に絞り込んだため、初級の受講者ばかり 9 名が参加した。母語はほとんどが英語であるが、初年度はスペイン語と中国語の母語話者が、次年度はスペイン語話者がそれぞれ 1 名ずつ参加した。

### 2.3 時期と期間

平成 24 年と平成 25 年には本学国際交流センターの教室において、学部授業のスケジュールに合わせて春学期と秋学期に分けて開講された。クラスは週に一回のペースで開かれ、授業の合間に参加したいという受講生の希望に沿って、学部授業の 3 限 4 限にあたる 1 時過ぎからと 3 時からの時間帯で 90 分の授業が行われた。

### 2.4 開講レベル

前述のとおり平成 24 年度は日本語レベルを問わず募集をかけたため、全くの初級者から上級者まで様々な受講者が参加した。したがってスタート当初は初級前半に 4 名と 5 名のクラスが 2 クラス、初級後半に 3 名のクラスが 1 クラス、中級に 3 名のクラスが 1 クラス、上級に 1 名ずつのクラスが 3 クラス設けられた。これに加えてスペイン語話者のための初級クラスも 1 クラス開講され、スペイン語が堪能なボランティア学生がその指導にあたった。次年度は受講者の能力のばらつきによるプレースメントの煩雑化を避けるべく、初級レベルに限って募集をかけた。そのため平成 25 年度春学期は初級教科書の全レッスンを 4 分割して隣接した 4 つのレベル（初級 1、初級 2、初級 3、初級 4）でクラスが開講できるようになった。

### 2.5 募集方法

ボランティアは教職課程を履修している学生にメールを送って参加を募った。メールの文面はボランティアが考え、送付は教職教育センターに依頼した。また、教職教育センターの入口にボランティア募集のポスターも設置した。受講者の募集もやはり、教職教育センターを介してメールを外国語教師に送付するとともに、非常勤講師室にポスターを掲示して行った。

### 2.6 レベル分け、クラス分けの方法

プレースメントにあたり、平成 24 年度はインタビューと簡単な筆記テストを行ったが、25 年度は様式を変えた筆記テストのみを課した。レベル分けは 4 回生のリーダーたちが中心となって行った。開講前にボランティア全員が集まり、各人のスケジュールと受講生の希望を見比べながらクラス分けや開講曜日・時間を決定した。

## 2.7 教材

使用教材に関しては、平成 24 年度はレベルが多岐にわたっていたため、各レベルの担当者が話し合いをして決めた。基本的には受講者のレベルにあわせて初級用教科書や中級用教科書、生教材をもとにした自作教材などを使用した。平成 25 年度はチームリーダーが集まって話し合い、『げんきⅠ』『げんきⅡ』をもとに初級 1 から初級 4 までの連続したシラバスを策定した。週一回の開講では当然教科書の全項目をカバーすることはできず、教室で扱う文法項目の刈り込みを行う必要があったため、具体的なシラバスは各レベルの担当者が集まって話し合いで決定した。受講生には教科書の購入を強制しなかったため、ボランティアが毎回、教科書をもとに文法ノートや練習問題のプリントを作成し、受講者に配布した。

## 2.8 クラス運営

90 分のクラスを 2～3 人で文法説明、会話練習、文化紹介に分けて担当し、各担当者があらかじめ用意した教案を週一回のミーティングで持ち寄り、全員で検討を行うとともに授業全体の構成や時間配分を話し合った。また全体ミーティングも月一回行い、プログラム運営やクラス管理に関する問題を話し合った。これ以外にも細かい連絡や打ち合わせをメールや SNS を通して行い、ボランティアの仲間と常に密に連携を保つよう心がけた。

## 3. コンサルテーション

日本語ボランティアの代表者と数回面談を行い、現状と問題点の把握、助言を行った。以下がその詳細である。

### 3.1 コンサルテーション 1 回目（平成 24 年 7 月 学生 A）

#### 現状報告

- 学生ボランティアは 15 名で、日本語教員養成課程を履修していない学生も含まれる。受講者は 16 名。
- 初級が 3 クラス、中級が 1 クラス、スペイン語話者対象のクラスが 2 クラス、上級が 3 クラス。

- 週一コマ、90分、時間は3限（1時15分から）、4限（3時から）。
- 告知は非常勤控室に掲示したポスターとメールで行った。
- 週に一回全体ミーティングを開いている。

#### 問題把握

- 一クラス当たりの学生数が少なく、個人授業になってしまった。そのため受講者が授業内容と関係ないことをしたがる学生がいて、予定通りに授業ができない（特に上級のクラスで）。

#### 助言

- あらかじめ開講するレベルをゼロ初級、初級中期、初級後期に限定して、受講者を募集したらどうか。
- レベル分けはアンケートと英文和訳とする。

#### アンケートの依頼

- この活動について受講者と学生ボランティアの意見・要望を把握するため、アンケートを作成し依頼した。（後日、回答して回収してもらった。）

### 3.2 コンサルテーション2回目（平成25年1月16日 学生B）

#### 助言

- 次の学期はあらかじめ開講するレベルを初級レベルに限定して、受講者の募集をかける。
- 学習内容が具体的でわかりやすいポスターを作成する。（後日、ポスターのデータを提出してもらい、確認後必要枚数をプリントアウトした。<sup>(1)</sup>）
- 外国人講師だけではなく、その家族も受講可能とする。

### 3.3 コンサルテーション3回目（平成25年6月 学生B、学生C）

#### 現状報告

- レベル分けは問題なく終了した。
- 本学の英語講師とその友人も受講している。

- ポルトガル人のスペイン語講師とその配偶者も受講している。

#### 問題把握

- Japanese1 のクラス（受講者数 1）にいる受講者が授業内容や進行をコントロールしようとするので困っている。あるレストランのホームページのメニューをプリントして持参。「このコースの予約をしたいから、なんと伝えればいいのか教えてほしい」と要望。授業時間を使うことはできないから、授業外でだれかに頼むように言うと、クラスを辞めてしまった。
- ボランティア教師が三人で受講者が一人のクラスが 4 クラスある。できれば複数の学生がいると教えやすい。

#### アンケートとビデオ撮りの依頼

- 前回行ったアンケート調査をもう一度行うように依頼。
- 教室活動のビデオ撮影を依頼。（これについては特にフィードバックをしていない。

#### 活動記録用紙作成

- 教職教育センターに毎回提出する用紙をデータ化し作成した。

### 3.4. コンサルテーション 4 回目（平成 25 年 7 月 17 日 学生 B、学生 D）

#### 現状報告と問題把握

- レベル分けは問題なく終了した。レベルを初級に限定したのでやりやすくなった。（継続の受講者も一応プレースメントテストを受けてもらっている。）
- 受講者の空いている時間が合わないため、同じレベルのクラスを違う時間にやらざるを得ない。
- 国際交流部から外国人講師宛てに受講者募集のメールを送ってもらっている。その際、ポスターも添付している。
- 留学へ行く学生もいてボランティアの数が減る。2 年生と 3 年生が少なく、今後このプログラムが存続できるか心配している。（これまでボランティアの募集は、教職教育センターから教職を履修している学生宛てに一斉メールでして

もらっている。)

- プレースメントテストの改訂が必要か。(後日提出してもらった。)
- 前回提出してもらった授業のビデオについても質問した。クラスは複数人で教えている。それぞれが文法説明、練習、文化と担当する。毎回担当が変わるグループもあるが、固定しているグループもある。

#### 助言

- 継続の受講者はプレースメントを免除したらどうか。
- なるべく同じレベルの受講者が集まれるように5限(4時40分から)に開講できないか。
- ボランティア学生の募集条件は人数が集まるのであれば現状のままとする。今後の状況次第では変えてもいいのではないか。案としては「日本語教師養成課程を履修している、または履修する意思がある人」、または、「日本語学概論を履修しているか履修済みの人」が挙げられた。しかし、取得単位については今後教職教育センターと詰める必要がある。
- 日本語関係(日本語学概論、日本語学、日本語教授法)のクラスで募集をしてもらう。(後日、著者がメールでそれぞれの担当者に依頼し、その結果、8名から連絡があった。)
- 教職教育センターの掲示板にボランティア募集のポスターを貼ってもらう。
- 受講者募集のポスターのスペイン語版を作成したらどうか。だれか頼める人がいないか。
- 平成24年のアンケートで教材を前の週にもらいたいという受講者がいたが、ホームページにアップロードして、だれでもそこからダウンロードできるようにしておくといいだろう。または、そのような学生にはテキスト(「げんき」)を購入してもらい、次回の項目を前もって予習できるように指示することもできるだろう。
- 今までは各ボランティアが各自教材を作成していたが、その教材をインターネット上にアップロードして共有したらどうか。

#### アンケート返却



- 平成 25 年 6 月のコンサルテーション時に依頼したアンケートを返却してもらった。

#### 4. 受講者を対象としたアンケート

日本語ボランティアと同様に、受講者にも平成 24 年の春と平成 25 年の春の 2 回アンケート調査を行った。平成 25 年から開講するクラスのレベルが変わったため対象者は同じではない。また、平成 25 年のアンケートには最後に「どうやってこのクラスについて知ったか」という質問が加えられているが、それ以外は同じ質問をした。その回答を下の表にまとめた。

表 1 アンケート調査の回答

平成 24 年春（回答者 12 名）		平成 25 年春（回答者 9 名） <sup>(2)</sup>	
1. What is your native language? あなたの母語は何ですか。			
英語	10 名	英語	8 名
スペイン語	1 名	スペイン語	1 名
中国語	1 名		
2. How long have you been living in Japan? どのぐらいの期間、日本に住んでいますか。			
10 年以上	4 名	10 年以上	1 名
5 年以上 10 年未満	3 名	5 年以上 10 年未満	3 名
1 年以上 5 年未満	4 名	1 年以上 5 年未満	2 名
1 年以下	1 名	1 年以下	2 名
3. What do you think about the class meeting times? 授業時間についてどう思いますか。			
多すぎる・長すぎる	1 名	多すぎる・長すぎる	0 名
ちょうどいい	9 名	ちょうどいい	7 名
少なすぎる・短すぎる	2 名	少なすぎる・短すぎる	2 名

4. How many students are there in your class?
---

あなたのクラスに学生は何人いますか。			
一人	3名	一人	1名
二人	3名	二人	4名
三人	5名	三人	4名
四人	1名 <sup>(3)</sup>		
5. How many teachers? あなたのクラスに担当教師は何人いますか。			
二人	1名	三人	4名
三人	11名	四人	5名
6. What do you think about the class size? クラスの大きさはどうですか。			
大きすぎる	0名	大きすぎる	0名
ちょうどいい	12名	ちょうどいい	9名
小さすぎる	3名 <sup>(4)</sup>	小さすぎる	0名
7. Please write any comments on your teacher. あなたの先生についてコメントを書いてください。			
<p>「熱心」「素晴らしい」「準備万端」「楽しい」「きちんとしている」「よく計画されている」「明るい」など好意的なコメントがほとんどだった。</p> <p>一方で二人だけ以下のようなコメントがあった。</p> <p>「一週間前にプリントをもらえれば、準備ができる。」(滞在歴4年)</p> <p>「もう少しクラスのまとめ方や教え方に習熟したほうがいい。」(滞在歴3年)</p>		<p>「すばらしい」「よく整理されている」「役に立つ」「楽しい活動」「熱狂的」「努力している」「親しみがある」「わかりやすい説明」「興味深いトピック」「いいチームワーク」「例文がいい」などすべてが肯定的なコメントだった。</p>	
8. Please write any comment on the placement. (Were you placed in the proper level?) クラス分けについてコメントを書いてください。(適正なレベルですか。)			
満足	8名	満足	8名
簡単	3名	(コメントなし 1名)	
少し難しい	1名 <sup>(5)</sup>		

9. Do you use any textbook in class? If yes, write the title of the textbook.

<p>クラスで教科書を使用しましたか。教科書のタイトルを書いてください。</p>			
いいえ	10名	いいえ	8名
はい	2名（「げんき」）	はい	1名（「げんき」）
<p>(6)</p>			
<p>10. What do you think about the amount of materials covered in class? クラスで扱った教授内容の量についてどう思いますか。</p>			
多すぎる	1名	多すぎる	0名
ちょうどいい	11名	ちょうどいい	8名
足りない	0名	足りない	1名
<p>11. What do you think about the amount of homework? 宿題の量についてどう思いますか。</p>			
多すぎる	0名	多すぎる	0名
ちょうどいい	7名	ちょうどいい	9名(全員)
足りない	4名		
必要ない	1名 <sup>(7)</sup>		
<p>12. Are there any tests and quizzes? テストや小テストがありましたか。</p>			
いいえ	5名	いいえ	3名
はい	7名	はい	6名
Any comment?		Any comment?	
<p>3名が「役に立った」「復習が役に立った」 「難しかったが、よかった」とコメント していた。</p>		<p>1名が「とても役に立つ」と回答してい た。</p>	

13. Overall, you are:

総合的にあなたの評価は			
非常に満足	9名	非常に満足	9名(全員)
とても満足	2名	とても満足	0名
普通	0名	普通	0名
とても不満足	0名	とても不満足	0名
非常に不満足	1名 <sup>(8)</sup>	非常に不満足	0名
14. Write down any changes that you think should be made to this course. このクラスで改善したほうが良いことがあれば書いてください。			
特になし	6名	特になし	5名
もっと宿題を出してほしい	2名	答える時間をもう少し与えてほしい	1名
一週間前にプリントを配布してほしい	2名	もっと単語を習いたい	1名
もっとコミュニケーションのための練習がしたい	1名	文化のクラスを増やしてほしい	1名
可動機の教室がいい	1名	新聞を読みたい	1名
		板書を書き写す時間がもっとほしい	1名
		「みんなの日本語」を使ったらどうか	1名
15. How did you know about these Japanese classes? この日本語教室について何で知りましたか。			
(この質問はなかった)		ポスター	0名
		メール	8名
		その他	1名(妻から)

平成24年春のアンケートも平成25年春のアンケートも全体的に好意的な意見が多く、このアンケート結果においては特に問題は見られなかった。平成24年については、開講レベルがゼロ初級から上級にまで広範囲に渡っていたので、様々なニーズがあったはずであろう。それでもこのような高評価を得られたのは、日本語ボランティアの並々ならぬ努力の結果だと言えよう。

平成25年の夏に、秋学期から初級レベルに限定してクラスを開講するように提

案した。それには二つの理由があった。ひとつはレベル分けの問題で、中上級まで範囲を広げてしまうと、レベル分けが難しくなり、結局個人授業になる可能性が高い。もうひとつの理由は、日本語ボランティアにとって、より有意義な実習にすることだった。本学の日本語教授法のクラスでは初級レベルの教授法を中心に学んでいる。模擬授業も初級レベルを設定しているので、日本語教師養成課程のクラスで学習した内容を具体的に実践できる機会が与えられ、より有意義だと考えた。実際、平成 25 年にクラス毎の学生数が増えたのも初級レベルに限定して開講したからだと考えられる。また質問 6 のクラスサイズについても全員が「ちょうどいい」と答えている。質問 8 でクラス分けについても聞いているが、評価もよくなっている。質問 11 で宿題の量について聞いたが、これも結果的にはよくなっている。やはり、レベルが広範囲に渡ると受講者のニーズも多様化し、対応が困難になるのは明らかである。経験が浅いボランティア学生には、教えやすい環境を整えてあげることも必要だろう。

質問 7 と質問 14 で書かれた改善点の中で採用したほうがいいものについてはコンサルテーションで提案した。受講者はそれぞれ限られた時間の中で日本語を学習しているので、あまり個人的な意見に左右されて変更してしまうと、それがかえって他の受講者にとって不利益になることもある。その見極めが難しいので、プロの日本語教師の助言が必要とされる。

## 5. 日本語ボランティアを対象としたアンケート

日本語ボランティアに平成 24 年の春と平成 25 年の春の 2 回アンケート調査を実施した。2 年継続してボランティアに参加した学生がいるため、回答に重複があることをお断りしておきたい。各質問にはそれぞれコメント欄を設け、問題点や改善点、要望等を具体的に記述してもらった形式で行った。アンケート結果を示すとともに、そこから見えてきた実態と、コンサルテーションを経て改善が図れたかどうかの検証を行いたい。

表 2 日本語教室ボランティアに対するアンケート調査の回答

ボランティアの背景

平成 24 年度春（回答者 14 名）	平成 25 年度春（回答者 15 名）
1. 日本語教員養成過程に登録していますか。	
はい 10 名	はい 10 名
いいえ 4 名	いいえ 5 名
2. どうしてボランティア日本語教室に参加しようと思いましたか。	
日本語教師になりたいから 6 名	日本語教師になりたいから 6 名
日本語教育に興味があるから 7 名	日本語教育に興味があるから 7 名
先輩の勧めで 1 名	先輩の勧めで 1 名
	外国語の先生に恩返ししたかった 1 名
3. 以前にボランティアで日本語を教えた経験がありますか。簡単に内容を記述してください。	
ある 6 名 オーストラリアの高校で教えた。 オビエド大学で週一時間 TA をした。 高校時代の留学先で TA をした。また 在日外国人就労者にボランティアで 教えた。 インドネシアでボランティアとして 教えた。 コロラド短期留学中に近くの大学の 日本語クラスに参加した。 カンボジアで孤児院の子供に日本語 を教えた。	ある 2 名 オーストラリアの高校で一コマだけ担当 させてもらった。 平成 24 年 2 月、カンボジアの孤児院で日 本語を教えた。

ボランティア教室に関して

4. プレースメントを行う上で問題がありましたか。	
あった 4 名	あった 2 名
なかった 10 名	なかった 14 名
5. シラバス作成に関して問題がありましたか。	
あった 3 名	あった 2 名
なかった 11 名	なかった 13 名

6. カリキュラムを策定するうえで問題がありましたか			
あった	4名	あった	2名
なかった	10名	なかった	13名
7. 自信を持って指導できたと思いますか。			
できなかった	6名	できなかった	4名
できた	9名	できた	11名
8. 出席や課題提出に関して適切なクラス管理ができましたか。			
できなかった	10名	できなかった	2名
できた	4名	できた	13名
9. スタッフ間の連携はうまくとれましたか。			
とれなかった	4名	とれなかった	0名
とれた	10名	とれた	15名
10. ボランティア教室運営に関して大学側のサポート体制に問題があると思いますか。			
ある	4名	ある	4名
特にない	10名	特にない	11名
11. プログラム運営に関してプロ教師の支援が必要だと感じる点がありますか。			
ある	12名	ある	7名
特にない	2名	特にない	7名
12. ボランティア日本語教室に参加してよかったと思いますか。			
思う	15名	思う	14名
特に思わない	0名	特に思わない	0名

### 5.1 ボランティア参加者の背景

平成24年度に参加した学生14名のうち、6名は留学先で、あるいは国際ボランティアとして日本語を教えた経験を持ち、また別の6名は、日本語教師を目指して勉強中の学生である。平成25年度も同様に、日本語教師を志す学生や、教師志望ではなくとも日本語教育に興味を持つ学生が参加者の大半を占めている。しかし中には日本語教育に関する知識も経験もなく参加した学生もいた。日本語教育の経験がある学生が経験のない学生を指導することが負担であるとか、興味本位で参加する学生は真面目に取り組んでくれないのでやりにくいといった不満が一部のボラ

ンティアの間でくすぶっていると聞き、筆者らは二年目は日本語教育関連の授業を履修した学生の参加を促すよう、対象を絞ってメール等で募集をかけてはどうかと助言した。同時に経験不足で即戦力になり難い参加者には当面、自分で日本語の学習の仕方がわかっている中級・上級レベルの受講者を担当してもらい、彼らの要望に応じた内容の活動をしてもらうように指導した。

## 5.2 ボランティア日本語教室に参加した学生の意見・感想

### 5.2.1 プレースメントに関して

プレースメントは平成 24 年度はインタビューと筆記、平成 25 年度は筆記のみで行った。一年目を終わった時点で実施したアンケート調査では「テスト作成が難しかった」というコメントが 1 件、「レベルの違う受講生に対するインタビューの仕方がわからなかった」というコメントが 3 件上がっていた。そこで 3 度目のコンサルティングで初年度に実施したテストを見せてもらった。筆者らは筆記テストが文法知識を的確に把握できる内容のテストではないと判断し、改善点を指摘した上で、筆記テストに関してはレベルが明確に判断できるような英文和訳の問題に変更することを提案した。またレベルのばらつきをなくすため、平成 25 年度は初級レベルに絞って募集してはどうかと提案した。その結果筆記テストやインタビューの内容を絞り込むことができ、クラス分けも前年度より容易になったと思われる。平成 25 年春学期のアンケート調査では受講者とボランティアの時間調整やレベル設定については前年度と同様、難しかったという感想が数件あったものの、「前回は同一クラスの学習者の能力に開きがありすぎて途中からレベルを 2 分割するというケースが出たが、今回はそのようなこともなく、前年度よりはプレースメントが円滑に行えた」という報告もあった。

### 5.2.2 シラバスに関して

平成 24 年度はレベルごとに事前にミーティングで話し合っただけでシラバスを作成していたが、教科書を使用しない上級コースではおおまかなシラバスしか用意していなかった。そのため回を重ねるうちに場当たりの教える形になってしまい、「もう少し緻密に計画を立てればよかった」「はじめにしっかりとシラバスを立てておけばよかった」などの意見が多く聞かれた。準備していた授業内容が、受講者の要



望でその都度変更されてしまったという。そこで筆者らは学習者に振り回されず、事前に設定したシラバスにのっとってクラスを進めていくよう助言した。平成 25 年度には受講対象を初級レベルに絞ったこともあり、教科書に沿って計画的に授業を進めることができたためか、シラバス通りに授業を進められなかったという感想は聞かれなかった。

### 5.2.3 指導法に関して

教え方については「教え方がどんどん上手くなって行く気がする」「教授法で学んだことが生かしてよかった」等の感想が平成 24 年度に 2 件、平成 25 年度に 3 件挙げられているものの、「準備不足だった」「受講者の要望に沿って場面シラバスで進めたが、構文シラバスにしか馴染みがなく苦労した」「教授法を習っていないので教え方に自信が持てなかった」などの反省コメントの方が圧倒的に多かった。

経験の浅いボランティアにとって効果的な教え方ができているかどうかは開講期間中、最も頭を悩ませる問題だろう。教育実習と異なり、わからないこと、困ったことに直面しても即座にプロの指導が仰げず、諸問題を自分たちで対処しなければいけないことが不安だという感想を多くの学生がもらしている。実際、ボランティアの要望の大半を占めていたのがプロ教師による指導法への助言であった。可能性としては本学留学生別科で筆者らが行っている授業のビデオを公開したり、われわれが定期的に全体ミーティングに臨席して助言を与えることも考えられよう。

しかし、ひとつのクラスに複数のボランティアが臨席し、交代に教えるという協同作業を通じての学びはきわめて大きいと思われる。一週間に一度の定期ミーティングでの教案・教材についての意見交換、仲間の行う授業の見学、その後の互いのフィードバックと、ボランティア教師としての成長を促進する協同学習の機会がふんだんに与えられる。経験者が新人をサポートし、グループリーダーを中心としてボランティアが相互に学び合えるこうした環境の中で、参加者たちの教師力は確実に向上するものと考えられる。

### 5.2.4 運営面に関して

ボランティア教室の運営に関してのコメントで特に目立ったのは大学のサポート体制の欠如であった。「教室は確保してもらえたが、授業時間として設定してい

る 90 分の使用が許可してもらえないことがあった」「空調の便宜を図ってもらえず、暑い中授業を行わなければならなかった」「ボランティア日本語教室を管理している教職教育センターからの指示に一貫性がなく、どうしていいのかわからないことがよくあった」「単位などいらなからあれこれ制約を課さないでほしい」などの不満をもらす学生がいた。こうした問題についてはサポーターを申し出た筆者らが今後実態を解明し、ボランティアが本来の活動に専心できるような外的環境を整えていかねばならない。

### 5.2.5 メンターの必要性

質問 11 に関して、平成 24 年度は「プロの教師の支援が欲しい」という回答が 14 名中 12 名に及んだ。ボランティア教室開講の初年度であったため、試行錯誤で教室を運営していく中でいろいろな問題に直面したと考えられる。「教授法に関する助言が欲しい」という要望が 8 件、「文法でわからないところを教えて欲しい」が 2 件、「ブレースメントやクラス管理に関して助言が欲しい」が 2 件であった。次年度には継続してボランティアに参加する学生が増え、先輩が後輩を指導する体制が整ってきたこともあろうが、プロの教師のサポートの必要性を感じていると答えた学生は参加者の半数の 7 名にとどまった。また初年度ほど具体的な要望についての記載はなく、「教授法に関する助言がほしい」、「ボランティアや受講生の募集活動についての助言がほしい」、「相談会を定期的に設けてほしい」が各 1 件ずつであった。

### 5.2.6 プログラム参加の意義

質問 12 については初年度、次年度とも参加者全員がプログラム参加に参加してよかったと答えている。「日本語を教える経験ができてよかった」「学習者にとって何が難しいかがわかった」「日本語教師になりたいという気持ちがますます強くなった」などがその主なものであるが、中には「お互いのいい点や悪い点を指摘し合い、仲間と共に学んでいく経験ができてよかった」「学習者と関わりあう中で日本の良さを再認識した」などの感想も見られた。そのいずれから、いわゆる無償の奉仕活動としてではなく、自己成長の糧として真剣に取り組んでいる日本語教室ボランティアたちの姿がうかがえる。

## 6. 今後の課題

以上、平成 24 年と平成 25 年に行った日本語ボランティア教室におけるコンサルテーションの内容と、アンケートの結果を見てきた。アンケートの結果は、平成 24 年度に比べて平成 25 年度はおおむねよくなっている。それは、開講レベルを初級に限定したため、それが様々な面で大きく影響して評価が高くなったと推測される。また、不満を持っていた受講者が学期途中で辞めてしまったため、今回のアンケート結果に反映されなかったこともひとつの要因だろう。ボランティア学生に対するアンケートでは、学生ボランティアがボランティア教室の運営と自らの教え方について、今尚、模索している実情が見えた。完成されたプログラムとは言えない面が多い。

プレースメントについては早急に改善する必要がある。現在使われているプレースメントテストは初級の 4 レベルを分けるには簡易すぎるので、平成 26 年度の春学期には改訂したものを使用したいと考えている。

平成 25 年の夏に教室活動のビデオを撮ってもらったが、結局それについてのフィードバックができなかった。今後は時間の許す限り、全体ミーティングに参加し、定期的に勉強会などを行っていけたらと考えている。

教材の蓄積という課題もある。これまでではそれぞれの学生ボランティアが作成したものを蓄積してこなかった。ボランティアが教材を一から作るとなるとかなりの労力が必要で、限られた時間で一度の授業のために一から教材を作成するのは効率的ではない。配布するプリント類や授業で使用するパワーポイントなど作成したものを共有できれば、教材の改訂も容易になり、質の向上にもつながるはずである。インターネットのオンライン・ストレージ・サービスなどを利用して、学生ボランティアのだれもがアクセスしてダウンロード・アップロードできる環境を整える必要がある。これらのノウハウを今後、提供しようと考えている。

また、ボランティアは現役大学生であるため、4 年生の秋学期で中心メンバーが引退し、新しい学生に交代する。従って、これまで蓄積したノウハウを確実に次の 4 年生に引き継いでいけるよう、著者らが橋渡し役となる必要がある。今後もこの調査とコンサルテーションを続け、このボランティア教室が受講者と学生ボランティアの両者にとってより一層有意義な活動になるよう、今後もこれまで以上に協力していきたいと考えている。

## 注

- (1) 平成 25 年春のポスターを巻末資料として添付した。
- (2) 開講当時から二名が辞めてしまったので、その二名の意見・要望は反映されていない。
- (3) 数名が学生ボランティアを含めた人数を回答したと考えられる。
- (4) 3 名が「ちょうどいい」と「小さすぎる」の両方にチェックを付けていた。
- (5) 実際はコメントを記入してもらったが、そのコメントを「満足」「簡単」「少し難しい」に分類し数値化した。
- (6) 実際には主教材として使用していなかったが、時々「げんき」の文法説明の部分をプリントにして配布していた。
- (7) 一名は「多すぎる」、「ちょうどいい」、「足りない」の選択肢から選ばず「宿題はいらない」とコメントしていた。
- (8) 「非常に不満足」を選択した一名は、他の質問の回答やコメントから判断すると英語の意味を勘違いしたと考えられる。

## 添付資料 1

ボランティア教室 受講者募集のポスター (表)

## Shall we study Japanese together?



To all Kansai Gaidai professors

☺ To live in Japan is a good opportunity to study Japanese, isn't it? Gaidai students studying to be Japanese language teachers want to practice by giving **FREE** Japanese lessons.

About classes

- ✓ Classes are divided into four levels. (Please refer to the next page.) You can choose what class you want to take.
- ✓ Classes will meet once a week during a free class period.
- ✓ Now, we are planning to start the classes in the second week of October. We will decide the specific day of the week and period according to the free time and needs of the learners. This will be decided after orientation.

**Your family members can also take the free lessons! (over 18 years old)**

**Please come to orientation.**

Orientation

- Date : **September 18<sup>th</sup>, 19<sup>th</sup> or 20<sup>th</sup>** (please choose one)
- Time : **12:30~** (about 30minutes)
- Place : **1214**
  - ※There will be a survey and an interview.
  - ※We will take a survey about your free time, so please check your most convenient times and days and bring your **lesson timetable**.

If you want to participate in the classes or have any questions, please send a message to inform us of the date you can attend the orientation and include any questions you may have.

- ◇ Leader : Takuya Shinkai
  - ✉ s100479@kansai.ac.jp
- ◇ Deadline : **September 17<sup>th</sup>**

添付資料 2

ボランティア教室 受講者募集のポスター（裏）

2013 August 27th

Class contents

Level	Genki lessons	Example
Japanese 1	Lesson 1~5	スーパーがあります。(There is a supermarket. ) きのうべんきょうしませんでした。 (I didn't study yesterday.)
Japanese 2	Lesson 6~12	ほんをよんでいます。(I am reading a book.) えいがをみたいです。(I want to see a film.)
Japanese 3	Lesson13~17	ともだちにはなをあげました。 (I gave a flower to my friend.) テニスをしよう。(Let's play tennis.)
Japanese 4	Lesson18~23	どろぼうにかばんをとられました。 (I had my bag stolen by a thief.) いもうとにふくをあらわせました。 (I made my sister wash my cloth.)



You don't have to buy the Japanese textbook "Genki". More details of class contents will be given in orientation. The class will follow this textbook while considering the needs of the learners.

Genki official site [http://genki.japantimes.co.jp/about\\_en/about06\\_en](http://genki.japantimes.co.jp/about_en/about06_en)



We are looking forward to having a class with you!